

九州で冬を越すツバメの分布と利用環境

—気候と土地利用に焦点をあてて—

長崎大学 大学院博士後期1年 天野孝保

■はじめに■

ツバメ *Hirundo rusutica* は春になると日本の北海道から九州にかけて繁殖のために渡来する渡り鳥です。本種はフィリピン、マレーシアなどで越冬しますが、少数が九州南部、特に宮崎県や鹿児島県で越冬することが知られています。しかし、その越冬分布を広域で調査した例は少なく、九州での越冬を可能にしている要因を明らかにした例はありません。そこで本研究では、本来より北方での越冬を可能にしている要因を解明することを目的として、まず九州南部の越冬ツバメの分布状況を調査します。次に、越冬場所の気候の特徴を調査し、続いて越冬ツバメがどのような環境を利用しているのかを農地がもたらす食物資源に注目して明らかにします。



図1. 調査地。黄色いラインで示す沿岸域に沿って、地域スケールで越冬ツバメの分布を調査する。現地踏査で明らかにした流域スケールでは農地を中心に食物資源調査を行う（Google Earth より引用して改変）。

■調査地■

宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口（32.0420, 131.4926）の沿岸から鹿児島県出水市米ノ津川河口（32.1133, 130.3373）までの沿岸部全域（図1の黄色いライン）とします。



■調査内容■

九州南部の越冬ツバメの空間分布と気候・土地利用の関係の調査を行うために、九州地方の32.00N以南の沿岸域を調査地とします。先行研究と現地踏査で明らかにしたツバメが越冬する地域の気候の特徴を把握し、続いて越冬ツバメが具体的にどこで採食しているかを知るために流域スケールで越冬ツバメの個体数と土地利用の関係、土地利用と食物資源の関係を把握します。気候の特徴として、気温・風成分（風向・風力）、湿度、降霜日、日照時間を調査します。食物資源調査はスウィーピング法、FITトラップ法（図2）、任意採集法を行います。



図2. 先行研究で行ったFITトラップの様子。

（丸山宗利研究室 <https://sites.google.com/site/myrmekophilos/m->

■期待される成果■

越冬ツバメたちは、なぜ本来の越冬地よりかなり北方で冬を越すことが可能なのかを、地域スケールの気候の恩恵、流域スケールの土地利用（農地など）の恩恵の両面から理解を深めることができると考えています。

■必要経費など■

宮崎県と鹿児島県までの旅費と餌資源調査の費用に充てたいと考えています。ご支援のほどよろしく願いいたします。